



■ 広島県出身 文学部3年

与えられた情報をきちんと自分の頭で考えて、  
自分だけの結論を出せる人でありたい。

### Q 維持会奨学生として思うことは？

維持会奨学生に選んでいただき、学生としてより有意義な時間の使い方をさせていただける事に本当に感謝しています。また、維持会奨学生として、本当に自分が必要だと思うことを学び、学んだ事を今一度自分の頭で考え、しっかりと核を持った人間になるよう努力しなければならないと感じております。維持会の皆様にご支援いただいていること、それは、私たち奨学生の今と未来にご期待くださっているということだと考えています。そのご期待に背かないように、しっかりと勉学に励み、真摯に自分と向き合っていきたいです。

### Q 一番興味のある授業は？

専攻している東洋史学のゼミの授業です。1・2年生の授業に多かった「教わる」授業ではなく、自分の興味があることを自分で調べ、知識を獲得し、考えるという作業がとても有意義であると感じており、楽しいです。近現代中東の外交や戦後ケアについて知識を深めていきたい、という自身の興味の方向性もはっきりしてきて、ここで学んだ事は、きっと私という人間の思想を形成する重要なパーツになるのだろうという気がしています。歴史というものは、凝り固まった一方向からだけの視点で見るとはとても危険なものであり、さらにそれが分かっていたとしても「正しい」歴史の見方というのはなかなか体得できるものではない、そもそも存在するのか分からない、と感じています。自分なりに、広い視野を持って歴史を見る訓練をしていきたいと思っています。

### Q 課外活動で力を入れていることは？

東京学生映画祭という学生だけで運営される映画祭の代表を務めています。全国の大学生・専門学生から映画を募集し、コンペティション形式でグランプリ・準グランプリを決める映画祭です。学生だけで29年続いてきた映画祭ですが、近年、資金不足に悩まされています。いかにして活動資金を調達するかを考えていくうちに、誰の為に、何のためにこの映画祭が続いてきたのか、という団体や企画の根本の部分から考え直す必要性を感じ、同じ志を持った仲間達と共に、もっと時代に合った映画祭として生まれ変わろうと、日々、試行錯誤して活動に励んでいます。

## Q 慶應義塾の良いところは？

高い志と広い視野を持った、あるいは持とうと努力している学生に多く出会えることです。大学に来て勉強するという面でも勿論ですが、それ以外にも、たとえば将来仕事にしていきたいと考えている自分の好きなことに関して、とことん向き合って努力していたり、自分のこれからの生き方について悩みつつも、なんとか答えの端をつかもうともがいたり、そういったある種自分と似た仲間に出会って、刺激を受けることで互いを高め合っていけるのだと思います。一人上京してきた学生にとって、そういった仲間ができることは本当に嬉しいことですし、やはり慶應に入って良かったなと感じる瞬間でもあります。

## Q 今後、学生生活でチャレンジしたいことは？

学生団体での活動など、「学生」として活動していくなかで強く感じることは、「大人は優しい」ということです。私たち学生が、教わる姿勢と向上心と尊敬の意を持って接すれば、社会人の皆さんは本当に協力的にいろいろな事を教えてくださり、新しい世界や考え方を見せてくれます。「学生」を名乗れる内に、様々な知らない世界に飛び込んで、一人でも多くの大人に会って、話を聞いて、視野を広げていきたいと強く思います。私は東洋史学専攻に所属していますが、社会学専攻のゼミにも所属しており、長野県で映画祭を開催するという企画をやっています。長野県小諸市に足を運んで現地の方々とお話するなど、様々なバックグラウンドを持った人達に出会い、視野を広げていこうとしています。

## Q 卒業後の進路、将来の夢は？

私は将来、映像関係の仕事に就きたいと考えています。東京学生映画祭の委員として活動する中で、映像にあらゆる自分の思いを込めようとしている人が沢山いることを、身をもって感じました。また、その映像を見て、考え方が変わったり、そこまでではなくとも「今日は良い日だったな」と感じる人がいたりするというのも実感してきました。言葉では限られた解釈しかできないことでも、映像に昇華することで、受け取った人のなかで様々な解釈を促すことができるという点で、映像はとても意味のある表現方法だと感じています。そして、おそらくこれは、「与えられた情報をきちんと自分の頭で考えて、自分だけの結論を出せる人でありたい」という、私の私自身に対する課題に沿った表現方法であるからだろうと思っています。